

エディトリアル

市立恵那病院 副病院長 山田誠史

2014年10月より予防接種法に基づく肺炎球菌ワクチンの定期接種が始まり、最近ではテレビCMも放映されていることもあり、インフルエンザワクチンと合わせ、これら2種類については一般の方々にもかなり浸透してきているといえよう。しかしながら、小児の場合と比べ成人に対するワクチンに関しては、定期接種に関してもしっかりとスケジュール化されておらず、本人の希望や主治医の方針にゆだねられている部分が多いのではないだろうか。また実際診療するうえで、海外出張の際のワクチン接種の種類や、スケジュールに戸惑い慌てて調べるようなことをしているのは小生だけではないと思う。本特集では、定期接種、任意接種を含めて、成人に対するワクチンに関し、その種類、有効性などについて最近の知見も含めて述べていただいた。もちろんこれですべて事足りたものではないが、成人ワクチンに対して多少なりとも自信をもって診療に当たれるのではないかと思う。

岡部信彦論文では、予防接種の意義や歴史的背景、さらには予防接種ストレス関連反応についても述べられている。山田宏貴論文では、成人のワクチン接種に関して、その種類やスケジュールなど総論を述べられている。また带状疱疹ワクチンを含め、他稿の各論にないワクチンについても記述されている。君塚善文らの論文では呼吸器ワクチンとして、肺炎球菌、インフルエンザ、およびSARS-CoV-2ワクチンについて述べられており、現在日本で使うことのできないワクチンも含めて詳述されている。北村邦夫論文では子宮頸がん予防ワクチンについて述べられている。このワクチンについては世界の趨勢と日本ではかなり異なっていたが、最近流れが変わってきてつつあるようでそのあたりも参考にされたい。田島靖久論文では海外渡航予定者のワクチンについてシナリオ形式でプラクティカルに述べられ、また特に日本ではお目にかかれない狂犬病予防について詳しく述べられている。村田一素論文では肝炎ウイルスワクチンに関して、B型肝炎ウイルスワクチンについては不応例およびその対応についても述べられている。

そのほか、予防接種に関する事項については山田論文にもあった、日本プライマリ・ケア連合学会作成の“こどもとおとなのワクチンサイト”(https://www.vaccine4all.jp/)や国立感染症研究所ホームページ(https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html)を参照されたい。

なお本稿執筆時現在、SARS-CoV-2ワクチンについての治験結果や、これまでのワクチンとの違いなどかなり詳しく連日報道されている。本稿が手元に届くころには世界のどこかでは実際に接種が始まっているのかもしれないが、効果に期待したいところである。